

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職小	17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務、特別活動の授業発表・研究発表あり。 神戸市で特別活動担当指導主事経験あり。		

授業の到達目標

特別活動の意義、役割、今日的課題について学ぶ。子供の自己実現、人間関係づくり、望ましい集団活動のあり方について専門的な知識や指導力を身に付ける。
kaiseiパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握し、目標と内容を理解する。学級活動の模擬体験や模擬授業を行う。さらに学校現場での実践、学級会活動等での映像を通して子供の姿を捉え、特別活動の理解を深めていく。

授業計画

- 1 オリエンテーション、改訂の趣旨と目標
- 2 基本的な性格と意義
- 3 学級活動の目標と内容
- 4 学級活動の指導計画
「学級や学校における生活づくりへの参画」の模擬授業
- 5 学級活動の指導計画
「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の模擬授業
- 6 学級活動の内容の取扱い
「一人一人のキャリア形成と自己実現」の模擬授業
- 7 児童会活動の目標と内容
- 8 児童会活動の指導計画と内容の取扱い
- 9 クラブ活動の目標と内容、指導計画と内容の取扱い
- 10 学校行事の目標と内容
- 11 学校行事の指導計画と内容の取扱い
- 12 指導計画の作成に当たっての配慮事項 特別活動における主体的・対話的で深い学び
- 13 指導計画の作成に当たっての配慮事項 全体計画・年間計画の作成とその留意点
- 14 内容の取扱いについての配慮事項
- 15 まとめと、定期試験

授業の方法

講義と演習（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション

等）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：与えられたテーマについて自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。また模擬授業を行い批評会を行う。
評価方法：平常点50% 定期試験50%

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「特別活動」 文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（幼小）		17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
林 幹士	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラー、教育委員会		

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

- 1 特別支援教育（インクルーシブ教育含む）の理念や制度
- 2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
- 3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
- 4 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
- 5 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
- 6 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
- 7 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
- 8 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
- 9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
- 10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
- 11 様々な障害種、重複障害と個別的教育支援
- 12 特別支援教育コーディネーター等との連携
- 13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
- 14 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
- 15 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援
- 16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）。

留意事項

必要な場合授業時に指示する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等		14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。
このクラスではKAISEIのI（知性）を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学習する。

- 1 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
- 2 特別活動の4つの内容である「学級活動（ホームルーム）」「生徒会活動（児童会活動）」「クラブ活動（部活動）」「学校行事」について理解する。
- 3 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と概要を説明（オリエンテーション）
- 2 教育課程における特別活動の位置づけ
- 3 特別活動の歴史の変遷
- 4 ①各校種における特別活動の内容と目標
②特別活動の内容1「学級活動」について
- 5 特別活動の内容2「生徒会（児童会）活動」について
- 6 特別活動の内容3「学校行事」について
- 7 学校目標と特別活動の指導計画について
- 8 演習1 学級活動の指導計画を作成する。その1
- 9 演習2 学校行事の特別活動の指導計画を作成する。
- 10 演習3 事前に作成した計画に基づき校外学習を施設を利用して行う。
- 11 演習4 校外学習を終えて
- 12 演習5 学級活動の指導計画を作成する。その2
- 13 クラブ活動と部活動との違い、部活動の教育的意義と課題について
- 14 特別活動と社会とのかかわり
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
- Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説『特別活動編』」東山書店
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

- ・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 東京書籍 国立教育研究所 教育課程研究センター
- ・「社会力を育てる」岩波新書 門脇厚司著
- ・「学校の社会力」朝日新聞 門脇厚司著など

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（中高）			14187	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
林 幹士	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

- 1 特別支援教育（インクルーシブ教育含む）の理念や制度
- 2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
- 3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
- 4 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
- 5 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
- 6 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
- 7 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
- 8 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
- 9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
- 10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
- 11 様々な障害種、重複障害と個別的教育支援
- 12 特別支援教育コーディネーター等との連携
- 13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
- 14 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
- 15 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援
- 16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

欠席について

学内の規定に準じる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）

留意事項

必要な場合授業時に指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと